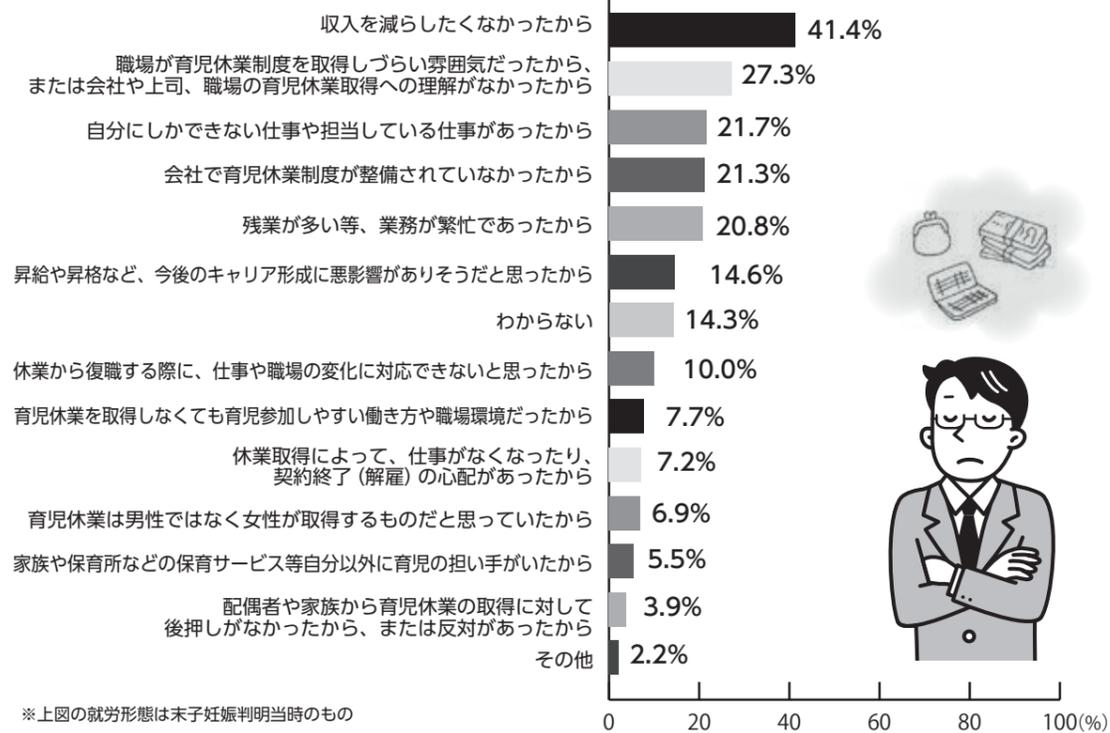


男性が育児休業を取得するメリットとは？

図② 育児休業制度を利用しなかった理由(複数回答) 男性正社員(N=769)

出典：令和2年度 仕事と育児等の両立に関する実態把握のための調査研究事業：労働者調査結果の概要



※上図の就労形態は末子妊娠判明当時のもの

メリット1 わが子とたっぷり触れ合う時間が取れる

生まれて間もないわが子の世話は昼夜を問わず大変です。育児休業の間は子どもと触れ合う時間が増え、泣いたり笑ったりする子どもの成長を肌で感じるができます。男性にとつての育児が、従来の「妻をサポート」から「育児の当事者」に変化し、家族の絆が深まります。

メリット3 育児経験は仕事に役立つ

男性も育児をすることで、ファミリー層が求めているニーズや気持ちを身を持って知ることになり、その経験が仕事をする上で大きなプラスになります。特に、生命保険会社や住宅、教育、飲食産業などの業種では、顧客満足度を高める力になるでしょう。

メリット2 男女ともに仕事と育児の両立ができる

働く女性の約5割が出産・育児を機に退職するといわれる現在。男性の育児休業取得が進み、女性の育児負担が減ることで、仕事と育児は両立できるとの意識が社会的にも高まり、働き方改革が急速に進展していきます。

なお、夫の家事・育児に割く時間が長いほど、妻の継続就業割合が高く、また第二子以降の出生割合も高い傾向があることが報告されています(厚生労働省「21世紀成年者縦断調査」)。男性の育児休業取得は、家庭の経済的な安定を得ることもでき、少子化対策にも有効といえるでしょう。

メリット4 産後の妻の心と身体のケアができる

産後の育児のストレスや睡眠不足は心身ともに不安定になりやすく、女性にとつて「ワンオペ育児」ほど過酷なものはありません。夫が妻の「疲れのサイン」にすぐに気づき、ケアすることで、チーム「家族」を最強にしていきましよう！

子どもが生まれたら積極的に育児休業を取得し、育児にかかわりたいという男性新入社員が増加しています。子育て・育児に関心や意欲のある男性が大幅に増えつつあるのが現状です。

就職活動ではまず、男子学生が企業の育児休業制度の有無をチェックするという時代がすぐそこまでやってきています。

不安も喜びも夫婦ともに 家族の絆を深める貴重な経験



田村 智弘さん

シチズン時計株式会社
研究開発センター
開発部 新規開拓課
マーケティンググループ
勤務年数：16年
家族：妻・子ども3歳

2022年4月から改正育児・介護休業法が段階的に施行されることとなり、男性の育児休業が取得しやすくなるそうです。

本日は西東京市に本社があり、現在私が勤めているシチズン時計の育児関係の制度紹介と私が育児を取得したときの実体験についてお話しさせていただきます。今後、取得を考えている方の参考になれば幸いです。

まず、シチズン時計の制度ですが慶弔休暇が出産から1カ月以内に最大6日取得でき、役所の手続きなどで自由に使えます。また育児のために子

私の母がすでに世界しており父も高齢だったため検討しはじめたのがきっかけです。

検討していく中で産後ケアの大事さを知ったときに育児と仕事の両立を模索するのではなく、制度を利用させてもらって短期間ですが育児に専念することに決めました。制度としての休職期間は3週間、それに育児前に慶弔休暇を6日間、育児後に有給休暇を1週間つけて合計5週間というパターンでした。

職場に報告すると、普通に「おめでとう。がんばってね。」という反応をしてもらえました。振り返ってみると、私の前に取得をした人がいて職場の理解があったことが大きかったかもしれません。育児だけに限らず介護や闘病など、長い社会人人生の中では仕事に100%専念できない時期はどうしてもあります。そういう時に助け合える職場になっていたことに感謝しています。

仕事については、上司や同僚に相談して前倒しする仕事と復職後にまわせる仕事、休職

どもが2歳になるまで休職でき、小学校6年生まで時短勤務、時差勤務、フレックスタイム勤務などの制度が利用できます。フレックスタイム勤務制度は育児のための制度のほか、ワークライフバランスの観点でほぼ全社で導入されていますので、小学校6年生までに限らず利用しているのが実態です。

先日、人事部に話を聞いたところ、男性で育児を取得している方は2割弱でした。そして私の育児ですが、最初は妻が里帰り出産を考えたものの、出産のタイミングが義母の手術と重なりそうになってしまったという事情と、

期間に進めてもらう仕事を分けてお願いし、比較的スムーズに休職に入れたと思います。

しかし生活に関しては、病院でおむつの替え方や沐浴の仕方などをレクチャーして頂いた後にすぐに母子が退院となり、経験不足で不安いっぱいなスタートになりました。

すぐに大きくなってしまいう新生児の貴重な反応をたくさん見られたのは幸せでしたが、同じ時期に不安な気持ちを妻と共有できたのも良かったと思います。

そして復職後は、フレックスタイム勤務制度を有効活用させてもらって、しばらくは朝早くから仕事をして明るいうちに帰宅、夕方から夜までは私の育児担当時間という生活で、子どもの生活リズムが整ってきたため半年もしないうちに普通の働き方に戻りました。

仕事についても家庭についても多くの方や国・会社の制度をサポートしてもらっているのを改めて感じました。私もサポートする側になったときは快くサポートしたいと思います。